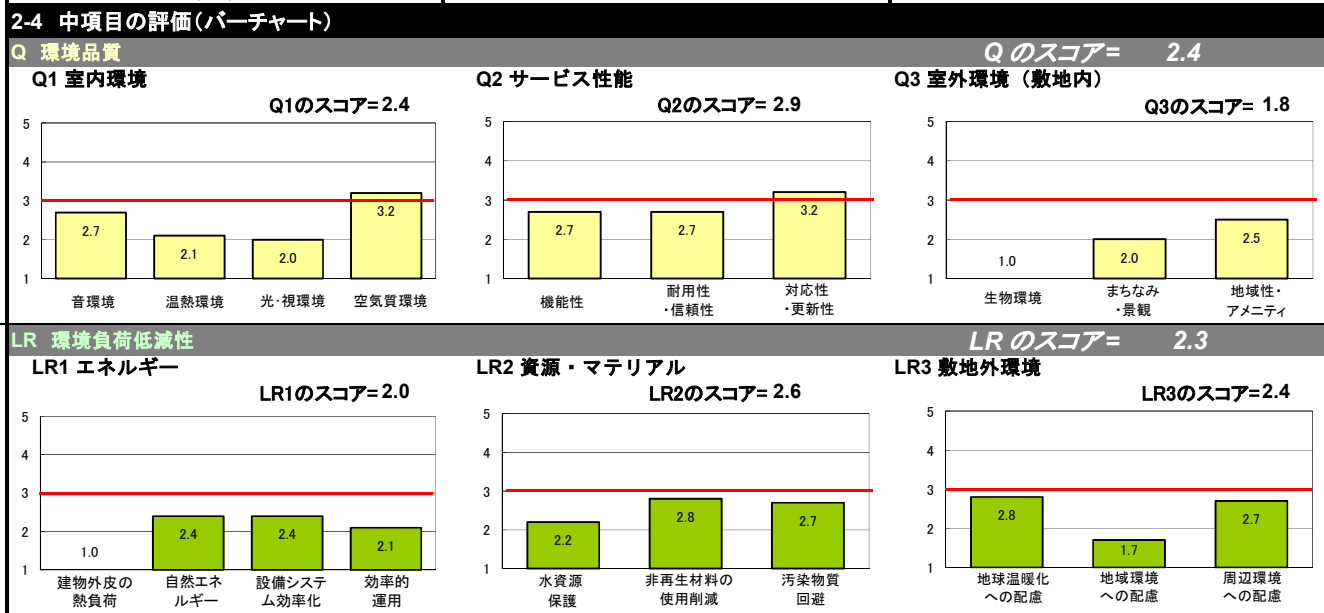
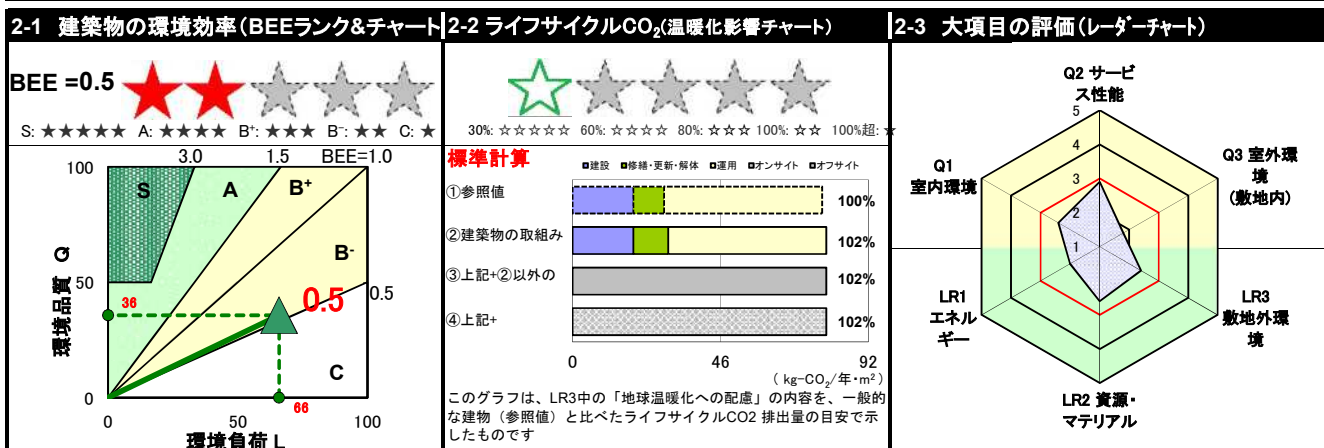


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21019

建築物名称	LAPORTA
建築主	井上 勝
建築物の所在地	川崎市中原区上新城二丁目203番1
設計者氏名、建築士事務所名	鳶 陽一郎 株式会社DIGDESIGN 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,818.62㎡
用途	共同住宅、店舗、診療所、美容院
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上9階
工事完了年月	令和6年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観	21019
建物名称	LAPORTA	階数	地上9F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください	
建設地	川崎市中原区上新城二丁目203番1	構造	RC造		
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	40 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	物販店,病院,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2024年1月 竣工	評価の実施日	2021年9月14日		
敷地面積	855 m ²	作成者	早田豊		
建築面積	662 m ²	確認日	2022年1月18日		
延床面積	2,819 m ²	確認者	早田豊		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要			実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目		各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)			Gの平均点	1.3
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策			
1	生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針に従った緑化計画としている。 南面に、街に開放したピロティ空間を設けている。	1.4/4.3	1.6
2	まちなみ・景観への配慮			
3 3.2	敷地内温熱環境の向上			
LR-3	■ 敷地外環境対策			
2 2.2	温熱環境悪化の改善		0.2/0.8	1.0
地球温暖化防止対策の推進(W)			Wの平均点	1.8
Q-1	■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2	外皮性能	主となる窓を南面に配置した。 Low-eガラスを使用している。	2.4/5.4	2.2
3 3.1 3.1.3	昼光利用設備			
3.2 3.2.1	昼光制御			
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策			
1	生物環境の保全と創出		0.6/2.3	1.3
3 3.2	敷地内温熱環境の向上			
LR-1	■ エネルギー対策			
1	建物外皮の熱負荷抑制		2.1/5.0	2.1
2	自然エネルギーの利用			
3	設備システムの高効率化			
4	効率的運用			
LR-2	■ 資源・マテリアル対策			
1	水資源保護		2.5/4.7	2.6
2	非再生性資源の使用量削減			
3 3.2	フロン・ハロンの回避			
LR-3	■ 敷地外環境対策			
2 2.2	温熱環境悪化の改善		0.2/0.8	1.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)			Rの平均点	2.7
Q-2	■ サービス性能対策			
2 2.2	部品・部材の耐用年数		0.2/0.5	2.6
LR-2	■ 資源・マテリアル対策			
1	水資源保護		2.1/4.0	2.7
2	非再生性資源の使用量削減			
LR-3	■ 敷地外環境対策			
2 2.3	地域インフラへの負荷抑制	川崎市と協議し、必要な雨水流出抑制対策を施している	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)			Hの平均点	1.5
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策			
1	生物環境の保全と創出		0.6/2.3	1.3
3 3.2	敷地内温熱環境の向上			
LR-1	■ エネルギー対策			
1	建物外皮の熱負荷抑制		2.1/5.0	2.1
2	自然エネルギーの利用			
3	設備システムの高効率化			
4	効率的運用			
LR-3	■ 敷地外環境対策			
2 2.2	温熱環境悪化の改善		0.2/0.8	1.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 1.8

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要			実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。			
建設段階				
Q-2 ■ サービス性能対策				
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	建築基準法における基準を満たす材料としている		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階				
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策				
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用	既存の躯体や、構造耐力上重要な部分にリサイクル材を使用しない		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				
運用時のエネルギー				
LR-1 ■ エネルギー対策				
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.1/5.0	2.1
2 自然エネルギーの利用				
3 設備システムの高効率化				
4 効率的運用				

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE-川崎2017年版
LAPORTA

欄に数値またはコメントを記入

21019

スコアシート		実施設計段階											
配慮項目		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
		G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質											2.4		
Q1 室内環境							0.40		-		2.4		
1 音環境						2.3	0.15	3.0	1.00		2.7		
1.1 室内騒音レベル						2.0	0.46	3.0	0.50				
1.2 遮音						2.8	0.46	3.0	0.50				
1 開口部遮音性能						3.0	0.90	3.0	0.30				
2 界壁遮音性能						2.0	0.10	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20				
1.3 吸音						1.0	0.08	-	-				
2 温熱環境						1.0	0.35	3.0	1.00		2.1		
2.1 室温制御						1.0	1.00	3.0	1.00				
1 室温			W			-	-	-	-				
2 外皮性能						1.0	0.68	3.0	1.00				
3 ゾーン別制御性						1.0	0.32	-	-				
2.2 湿度制御						-	-	-	-				
2.3 空調方式						-	-	-	-				
3 光・視環境						2.2	0.25	2.0	1.00		2.0		
3.1 昼光利用						3.0	0.60	3.0	0.50				
1 昼光率						3.0	0.46	3.0	0.52				
2 方位別開口						-	-	3.0	0.23				
3 昼光利用設備			W			3.0	0.54	3.0	0.25				
3.2 グレア対策						1.0	0.40	1.0	0.50				
1 昼光制御			W			1.0	1.00	1.0	1.00				
3.3 照度						-	-	-	-				
3.4 照明制御						-	-	-	-				
4 空気質環境						2.8	0.25	3.6	1.00		3.2		
4.1 発生源対策						3.0	0.56	4.0	0.63				
1 化学汚染物質						ほぼ全面的にF☆☆☆☆の仕上げ材を使用する		3.0	1.00			4.0	1.00
4.2 換気						3.0	0.36	3.0	0.38				
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能						3.0	-	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33				
4.3 運用管理						1.5	0.08	-	-				
1 CO ₂ の監視						3.0	0.29	-	-				
2 喫煙の制御						1.0	0.71	-	-				

Q2 サービス性能						—	0.30	-	-	2.9
1 機能性						2.2	0.40	3.2	1.00	2.7
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性					3.0	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応					1.0	-	3.0	1.00	
3	バリアフリー計画					3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						1.0	0.30	3.5	0.40	
1	広さ感・景観				住戸の居室の天井高が2.5m以上確保できる	1.0	0.08	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース					2.0	0.08	-	-	
3	内装計画				住戸ごとにコンセプトがあり、CG/バースでイメージの擦り合わせを行なった	1.0	0.84	3.0	0.50	
1.3 維持管理						2.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保					2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.7	0.30	-	-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						2.6	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数				R	3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔				R	2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔				R	1.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔				R	3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔				R	3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔				R	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備					3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備					2.0	0.20	-	-	
3	電気設備					1.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法					3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備					3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						2.7	0.30	3.6	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり						2.2	0.12	4.2	0.50	
1	階高のゆとり				住戸部分は階高3.03mで計画している	1.7	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ					3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.12	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性						2.8	0.76	-	-	
1	空調配管の更新性					2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性					3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性					3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保					3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						—	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出					G W	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮					G	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮						2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上						3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					G W	2.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	2.3
LR1 エネルギー					0.40	-	-	2.0
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H		1.0	0.20	-	1.0
2 自然エネルギー利用	W		H		2.4	0.10	-	2.4
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEQ][BEIm] = 1.00	2.4	0.50	-	2.4
4 効率的運用					2.1	0.20	-	2.1
集合住宅以外の評価					1.0	0.41	-	
4.1 モニタリング	W		H		-	-	-	
4.2 運用管理体制	W		H		1.0	1.00	-	
集合住宅の評価					3.0	0.59	-	
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル					0.30	-	-	2.6
1 水資源保護	W	R			2.2	0.20	-	2.2
1.1 節水					1.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.85	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.15	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.8	0.60	-	2.8
2.1 材料使用量の削減	W	R			2.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R			3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R		-	1.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R			2.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R		LGS工法を採用	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.7	0.20	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.70	-	
1 消火剤	W				2.0	0.33	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W				3.0	0.33	-	
3 冷媒	W				3.0	0.33	-	
LR3 敷地外環境					0.30	-	-	2.4
1 地球温暖化への配慮	W				2.8	0.33	-	2.8
2 地域環境への配慮					1.7	0.33	-	1.7
2.1 大気汚染防止					2.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H	1.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減			R		3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制			R		3.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮					2.7	0.33	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	
2 振動					-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制					1.0	-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					1.6	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策					1.0	0.70	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	